

NESCO BOOKS

変化の読み方

五年後、十年後を見とおす技術

柳田邦男



「未来予測」はなぜ当たり、なぜはずれるのか？ 確かな眼をもつ時代の狙^{スナイパー}が書き下ろす衝撃のレポート!!



A-01



定価720円

変化の読み方

五年後、十年後を見とおす技術

1985年6月5日 第1刷

著者 柳田邦男

発行者 田中健五

発行所 ネスコ（日本映像出版株式会社）

東京都千代田区紀尾井町3-23 文春ビル内 〒102

TEL03・265・1211

発売元 株式会社文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町3-23 〒102

TEL03・265・1211

落丁・乱丁本は、お手数ですが文藝春秋営業部宛お送り下さい。
送料小社負担でお取替致します。

印刷・凸版印刷

製本・凸版製本

ISBN4-89036-001-8 C0236 ¥720E

©KUNIO YANAGIDA 1985 PRINTED IN JAPAN

変化の読み方

五年後、十年後を見とおす技術

柳田邦男



NESCO BOOKS

はじめに

会社勤めの中堅ビジネスマンが、よく「このごろの新入社員はまるで外国人みたいだ」とぼやくのを耳にします。年ごろの息子や娘さんをもつ親は、「このごろの若者は何を考えてるんだかわからん」と嘆きます。世代によって、価値観やライフスタイルが、まるで断層をおこしたように変わっているのです。

書店に入ると、ハイテクや企業経営などのいわゆるビジネス書がずらりとならんでいます。急激な技術の進歩と開発競争のなかで、企業もビジネスマンも生きぬいていくのがたいへんのです。

経済の動向を見ると、欧米からの対日批判はきびしくなるばかりで、経済大国を誇る日本の将来に重大な影がさしています。国際情勢はいえ、大韓航空機事件で米ソ関係は冷戦以後最悪といわれるほどになっていたかと思うと、アメリカのレーガン政権が二期目に入り、ソ連側もゴルバチョフ時代になるや、にわかに対話のムードが高まってきました。

世の中は変転めまぐるしく、深刻に考えると、これからどうなるのか、心配の種はつきません。未来が読めない、あるいは読みにくいというのは、まさに現代の特徴であるように見えます。最近、官庁や企業は、それぞれに懸命になって未来予測の作業を行っていますが、それは

裏返していえば、今日ほど未来が読みにくく、そして気になる時代はかつてなかったということでしよう。

本書は、そういう状況のなかで、各種の未来予測に屋上屋おくじようおくを架そうとするものではありません。未来予測とは、ことばをかえていうなら、時代の変化を読むということです。

そのばあいにとくに大事なものは、時代に変化をもたらす原因にはどんなものがあるのかをしつかりと理解しておくことと、変化の予兆をどのようにしてとらえるかということでしょう。それらは過去のかずかずの事例から学ぶことができます。

ちなみに、一九七三年の石油危機は、日本人にとって青天の霹靂へきれきでしたが、よく調べてみると、じつはその予測を可能にする兆候は、十分にあったのです。変化のめまぐるしい現代においては、あのときのようなパニックに陥らないようにするために、政治、行政、企業、個人のあらゆる立場で、時代の変化を先どりして読んでいく思考法が求められているのです。

本書は、私がさまざまな事件の取材をとおして、時代の変化というものをどうとらえているか、また収集した未来予測の文献類をどのように読んでいるかを整理したものです。いわば時代の変化の読み方に関する「私的見解」です。読者が現代を生きるための情報整理あるいは頭の柔軟体操の参考にしていただければ幸いです。

変化の読み方●目次

はじめに 3

第一章 未来予測にはなぜ当たりはずれがあるのか

15

時代には「顔」がある 16

米ソ軍縮交渉は「予想外の出来事」か 17

事実を見つめる「三つの眼」とは 21

大正時代に予測された二〇二〇年の日本の姿 22

未来をいい当てたのは漫画家だった 23

現状にこだわるから二十一世紀が見えない 26

専門家が予測した「一九八四年の世界」の結末 27

当たらなかったコンピュータとエネルギーの将来 29

第二章

「いま」とはどういう時代なのか

何が原因で予測がはずれるのか 32

二十一世紀は十六年後にやってくる 36

六十年を経過した「昭和」の長さを知る 38

「後進国」から「経済大国」への一大変身 40

「お国のため」から「会社のため」に 42

「農村型社会」から「都市型社会」への変貌 43

「企業中心社会」の成立と「移動人間型社会」の誕生 44

世界情勢が「茶の間化」された 46

「高齢化社会」が到来した 47

国民文化を変える「ヤングカルチャー」の形成 48

家族関係を見直すときがきた 48

私たちの暮らしを変えたのは敗戦ではない 50

戦後にも戦争に匹敵する「活断層」があった 52

欧米に「追いつき追いこせ」時代の終焉^{しゅうえん} 55

第三章

時代変化の波を読む

時代の変化を知るには三つの波でとらえる 60

文明の盛衰は百年単位の長波で見る 61

アメリカ文明はたして衰退するか 63

世界をリードする国は百年周期で代わる 66

世界指導国になるためには四つの条件がある 70

景気の大変動には半世紀の周期性がある 73

技術革新のうねりで時代変化がわかる 76

時代相を見るときは十年きざみの尺度で 78

「六〇年代」とはどんな時代だったのか 80

飢餓感から自由になった「七〇年代」 83

流行語から時代相を知る 85

一、二年で「予想外」に変化することもある 89

第四章

何が時代を変えるのか

- 戦争は時代を変える最大の要因 94
- 政権交代・外交路線の転換もおもな要因 96
- 事件や災害も社会を大きく変える 97
- 資源を制する国は世界を制する 99
- 食糧という資源をぬきに未来は語れない 102
- ライフスタイルを変えるのはイノベーション 103
- 「石油危機」は日本人の価値観をも変えた 105
- 環境問題も社会を変える重要なファクター 108
- アメリカでは「気分」が経済に影響を与えた 109
- 見落としてならない「変わらないもの」 112
- 「国民性」はゆつくりと変わるもの 115

第五章

日本の成長を可能にしたバネとは

日本の外来文化導入のスタイルは「略奪型」 120

科学技術導入の原型は「仮名^{かな}」の発明 121

日本人は「苦境をバネに飛躍する」 123

零戦の開発にかかった十年は経済復興と同じ期間 124

産業界の変化の速度は五年から十年と見るべき 127

第六章

産業構造はどう変わるのか

技術革新の波がきても在来産業はなくなるらない 130

商品の「重さ」から成長産業を知る 132

戦後の経済復興を支えた「トン型産業」 135

高度成長期は「トン・キロ混合型産業」が主役 136

高度成長爛熟期は「キロ型産業」が花形になる 137

第七章

科学技術が達成する未来とは

低成長時代に驚異的に成長した「グラム型産業」 140
「低成長」ではなく「新・成長の時代」に入った 142

脳細胞のはたらきを映像で見られる時代がきた 146
ジョギング中に恍惚状態になる理由がわかった 148
十年、二十年後に実現しそうな科学技術とは 150
「日米の競争」と「企業化」が夢を実現する原動力 154
いま産業界はどの分野を注視しているか 157
情報・バイオ・新素材の市場規模は巨大化する 160
日本の技術水準は世界でどんなレベルか 162
アメリカの技術開発は宇宙軍事技術主導型 165
日本の技術者は「暗記型」から「思考型」への転換を 167

第八章

十年、二十年後の生活はこう変わる

- 目に見えない「素材革命」が進行している 172
- 科学技術は私たちのライフスタイルをどう変えるか 174
- 心臓疾患が死亡原因の第一位になる 176
- ガン死が増えることで医療体制が変わる 178
- ボケ老人のための「デイ・ケア施設」が求められる 180
- 年をとるほど発達する「総合的判断能力」 182
- 高年齢層の労働力が必要なきがくる 185
- テクノストレスをどう克服するか 187
- 「モラトリウム人間」がますます定着する 189
- 心から打ちこめる仕事を見つけたある青年 190
- 自分に誠実であろうとする若者の生き方 194
- 「ホテル家族」「劇場家族」の出現 196
- 日本はアメリカ型家庭崩壊の道をたどらない 197

第九章

「太平洋の時代」がやってくる

意欲のない若者の輩出で日本人の勤勉さはなくなるか 200
若者が情熱を燃やす動機が未来を開く鍵 203

文明の担い手は西洋から東洋へ移る 208

日米首脳が打ち出した「太平洋共同体構想」 209

日米経済摩擦はじつは両国間の破局を生まない 212

単一国家が世界をリードする時代は終わった 214

経済戦争と情報戦争が指導国交代のきっかけになる 217

第十章

「オプシヨン発想」のすすめ

キューバ危機に見るアメリカ型決断のスタイル 222

ミッドウェー海戦が日本型意思決定の典型 224

日本の連合艦隊の作戦は一発勝負主義だった 227

変化の予兆の手がかりは専門家のレポートにある 229

日本の政府・産業界は中東情勢をなぜ読めなかったのか 231

事態の本質は「フル・テキスト」を読まなければわからない 235

未来予測の実現時期の「ずれ」を計算する 237

「成長の限界」のような大警告に注目する 240

十五年前にやった私の「未来予測」 241

未来予測とは「いま何をなすべきか」を検証する作業 243

長期予測には常識をこえた発想が役に立つ 244

突発的事件の今後の展開を読む感覚を養う 245

幅のある危機対応のオプションを 246

第一章

未来予測にはなぜ当たりはずれがあるのか